

市長のあまねくつぶやき

「総合戦略書について」

先月に引き続き「5つの重点プロジェクト」の3つ目、「住みやすい地域プロジェクト」です。

昨年と今年の市民アンケートで、行方市に住み続けたい人は、50歳代から70歳代で約80パーセント以上あり、20歳代から40歳代では65パーセントから75パーセントで推移しています。50歳代以上の方の住み続けたい理由として「長年住み慣れていて愛着がある」、「居住環境、自然環境が良い」という心理面が影響しているのに対し、20歳代から40歳代は「職場、学校が市内や近隣にあるから」という必要性から居住意思があることがわかりました。

年齢層によって暮らし方の違いはありますが、住みやすさという観点から地域コミュニティも重要です。本年4月に市立小中学校の再編が完了しましたが、旧小学校単位での地域コミュニティや、世代間での繋がりをどのように維持してゆくかが、これからの課題になります。

このため、各行政区が主体となり、市民主体の地域づくり、まちづくりを推進してゆく地域のリーダーを養成していく必要が

あります。かつては、青年団活動が盛んに行われていましたが、それぞれの働き方が変わってきたために、消防団活動やPTA活動を主とした組織が地域コミュニティの中心になってきています。しかし、子どもや消防団員の数が減ってきているため、組織の拡大が図れません。そこで、高齢者ボランティアや消防団OBなど今までの知識や経験を持った方たちが、世代間交流を中心として地域づくりをしてゆくことで、安心して住みやすい街ができあがると考えています。

行政においては、そうした活動を後押しする市民活動センターや、地域づくりの部署等の創設も大切であると考えています。地域づくりを部分最適で考えるのではなく、市民、行政区、地域の組織、行政が一体となって、全体最適の思考により住みやすい地域づくりを図ってゆきます。

行方市長 鈴木周也



市長へのEメール
投稿用2次元コード



市政に対する意見や
提案をメールでお寄
せください。

はい、こちら行方市消費生活センター！

次々勧められる「開運商法」のアクセサリーに注意!!



【事例】

家庭や仕事、恋愛面について悩みがあった。そんなある日、週刊誌を見ていると、「開運プレスレットを買ってすぐ人生がいい方に変わった!悩み事がなくなった!」とあったので、注文した。後日、商品が届き、2・3日身に付けていたが、特に運が上がったように感じられなかったので、返金しようと業者に電話した。すると、「もっと効果のある水晶玉がある」、「これを買っておかないと、運気が下がり、また不幸になる」と言われてしまった。不安になってしまい、言われるがまま10万円もする高額な水晶玉を買ってしまった。やっぱり解約したい。

【解説】

このような業者の手口を「開運商法」、「靈感商法」といいます。人の不安や不幸に付け込んで、高額な商品を次々売りつける商法です。開運プレスレットを注文しようとする、占い等を信じやすい傾向がある人に対して、「このままでは不幸になる」と脅し、不安をあおり、高額な商品や祈祷などの契約をさせようとします。プレスレットを購入して、開運になったか否かは、立証しようがないものです。不安をあおってくるような業者とは契約しないようにしましょう。また、契約してしまっても、電話で勧誘された場合はクーリング・オフできる場合がありますので、まずは消費生活センターにご相談ください。

— まずはお電話を! —

【問い合わせ】行方市消費生活センター ☎0291-34-6446